

【保育目標】

本園の保育基本方針には「キリスト教精神に基づいた保育」が創立以来掲げられています。そして、「神と人とを愛し、愛される子どもに育てる」ことが保育全体の柱となっています。

保育教育目標は、園全体と年齢ごとに設定しています。このほかに、1年間を「ユニット」に分けて、ユニットごとの目標を掲げています。2～5歳児の幼児15～18名グループの「ホーム」では8期、0～2歳児の乳児3～5名グループの「スイート」では7期にユニットが設定されています。

保育目標や基本方針、ユニットごとの目標（保育のねらい）については、新入園児説明会や進級入園式、園だよりなどを通して保護者の方にも周知を図っています。また、グループごとの実態に沿うようにグループごとの目標も設定し、その中で個別のこどもの目標もたてています。

2025年度も、年度末に年齢ごとの懇談会をおこない、各年齢におけるこどもの様子や発達の目安や見通し、保育の方針等について保護者の方たちと共有できるようにしました。

園生活を通して、さまざまな異文化や一人ひとりの違いをお互いに認め合い、その違いこそが尊ばれるような保育目標をこれからも大切にしていきます。

【保育内容】

<保育の連携について>

本園では3つの「ファミリー」に分かれて、0～5歳児までの異年齢のこどもたちが一緒に過ごす縦割り保育となっています。ファミリーの中では、0～2歳児までの乳児グループ「スイート」と2～5歳児までの幼児グループ「ホーム」があり、それぞれに担任がいますが、ファミリー全体で保育にあたるチーム保育となっています。そのため、ファミリーの保育者間でこまめに情報を共有し合い、定期的に会議や話し合いをおこなっています。

また、「ホーム」の活動はファミリーを越えて多彩な経験ができるようにしていることから、ファミリーを越えての会議も定期的におこなっています。乳児に関しても、他ファミリー保育者からの視点や助言等をお互いに与え合ったり、保育に関する共通の目標を確認し合うために、同様にファミリーを越えての会議を定期的におこなっています。

<保育室の環境について>

保育室は、家庭的で温かな雰囲気やしつらえを大切にし、こどもたちが自発的に好きな遊びができるように、ままごと、のりもの、指先を使った遊び、チャーム（ごっこ遊び）、絵本など多彩なコーナー遊びを提供しています。こどもの興味や遊ぶ姿、時期等に応じて、遊びの幅が広がったり、深まったりできるようにユニットごとに振り返り、検討しています。

<センター活動について>

ホーム児は、時期に応じて、週に1～3回「センター活動」が用意されています。センター活動とは、こどもたちの主体性や自主性を高めるための取り組みで、①しぜんワークショップ（自然・生命・キリスト教）、②おんがく、③うんどう、④おはなし（絵本、言葉）、⑤たいけん（ごっこ遊び、施設訪問など）、⑥かたち（造形）、⑦マナ（食育）の7つのセンターから、自分が好きな活動を選んで参加するものです。それぞれのセンターの特色が活かされている内容である

か、年齢や発達に応じた活動の提供の仕方ができているか、等について定期的におこなわれるセンター会議の中でセンター担当者同士で話し合い、課題を共有しています。

<個別の発達援助>

障がい児や集団生活の中で配慮を必要とするこどもについては、本人と保護者の思いや願いを丁寧に聴き取りながら個別の支援計画を立てて、園生活や活動の中で活かすようにしています。

各会議の中でも、個別の支援・援助について、かかわる保育者間で共有を図っています。年度末には、一年の間のこどもの成長した姿や保育の中での支援や課題について保護者の方と懇談し、次年度に向けての願いなどを聴き取りするようにしています。また、堺市の障害児支援の巡回担当者へもこまめに相談し、助言を受けながら園での支援につなげています。

課題としては、発達に応じた加配のあり方や、別事業所の児童発達支援や療育に並行通園しているこどもについて、療育の事業者との情報共有が難しいことが挙げられます。

【食事・食育】

<食育について>

園の給食は園内の調理室で毎日作っています。食事を作っている様子をこどもたちが大きなガラス窓越しに見たり、センター活動の中で簡単なクッキングをしたり、野菜を育てたりする食育と結びつけた食事の提供に努めています。また、園の管理栄養士や栄養士がこどもたちに旬の食材や栄養について絵本やエプロンシアター、手作りの教材などを用いて伝えることも保育計画としてたてています。献立にも、いろいろな国や民族の食事を取り入れて、食を通して異文化について知る経験も大切にしています。

2025年度の課題としては、酷暑のために野菜がほとんど育たなかったこと、クッキングの回数が減ってしまったことが挙げられます。次年度に向けて、夏以外に育てやすい野菜づくりへの取り組みとクッキングの機会が増えるように各センター間で協力し合い、保育計画に組み込んでいくようにします。

食事については、一人ひとりの個人差や食欲に応じて、食べる量を調整できるようにしています。0～2歳児については、喫食状況を連絡帳を通して保護者に知らせています。2～5歳児は、週に1～3回程度、11:30～12:30ごろまでの間、カフェテリアでの食事をできるようにしています。その時間の中で自分の好きなタイミングで食事に向かい、4、5歳児は自分で配膳をする経験もします。カフェテリアでは、ファミリー以外の友だちと一緒に食べる喜びを味わったり、自分で好きな場所を選んで食べたり、食べる量も自分で考えて決めたり、といった社会性や自主性が育まれることも意図しています。

<特別食・除去食について>

食物アレルギーがあるこどもについては、医師による意見書を提出してもらい、保護者とも連携しながら安全に除去食を提供できるようにしています。調理の特別食担当者と担任等が毎月、献立の中での除去食の確認をおこなっています。

また、アレルギーはなくても、咀嚼や嚥下力が弱く、医師による意見書がある場合は、個別にミキサー食や刻み食等を提供し、安全に食べられるよう職員が食事中に1名ついて見守るようにしています。

【行事】

本園の行事は、こどもたちが成果を見せるための行事ではなく、日頃の保育に根差してこどもたちが心を動かされたり、喜びをもって取り組めることを大切に計画し、実行しています。保育者だけで準備をするのではなく、準備の段階からこどもたちも楽しく参加できるようにし、また、行事後の余韻も楽しめるように計画しています。具体的には、夏のお楽しみ会、あそBOフェスタ、お弁当箱バイキング、クリスマス会、世界の国まつり、お茶会、遠足などがあります。行事によっては保護者の方たちにも参加やお手伝いの協力を呼びかけ、保護者と一緒につくる保育の機会も大切にしています。

課題としては、コロナ渦前までは行事を通してできていた地域の方たちとこどもたちとの交流の回復が挙げられています。また、ひとり親家庭や共働き家庭などで、園行事への参加が難しい家庭への配慮や支援も引き続き検討していきます。

【研修・研究】

園全体の研修として、年に2回、9月と3月に園内でおこなっています。また、職員研修以外で年2回の職員会議においても、全体の研修の時間を設けて外部講師を招いて研修をおこなっています。2025年度は、6月に大方美香氏（大阪総合保育大学学長）を招いて「保育の専門性」について学ぶ機会が与えられました。9月は「こひつじこども園の縦割り保育の歴史」「BCPに沿った災害時シミュレーション」を主たるテーマとして職員間で共有し、話し合いました。3月には毎年、法人の理念や中長期計画について共有することとし、2025年度もそのように計画しています。

職員が自主的に参加する外部研修についても、研修日や研修に要する費用の補助をおこなっています。参加した研修について、研修報告書を書き、職員全員が共有できるようにしたり、年4回、研修報告の場を設けています。研修を通して、新たな視点が与えられたり、園の保育、自分の保育をふり返る機会となるよう、次年度もできるだけ多彩な研修に多くの職員が参加できる機会を確保できるようにします。

【実習・インターンシップ等の受け入れ】

保育士の養成校3～5校からの実習生と管理栄養士の養成校1校からの実習生を毎年受け入れます。また、インターンシップや職場体験を希望する学生、生徒の受け入れも積極的におこなっています。実習を通して、保育という仕事のおもしろさややりがい、魅力を伝えられるように努めています。

【多様な生き物とのかかわり】

園では多様な生き物とともに生活できるよう、室内外で環境づくりに取り組んでいます。室内ではこどもたちがお世話しやすい場所にカメやメダカ、ザリガニなどの水槽やカブトムシの幼虫がいるケースを置いています。園庭ではヤギ小屋を設置し、ヤギを飼育しています。また、2025年度に新しいビオトープ池を作り、堺市の「ふれあい自然の森」の1級ビオトープ計画管理士のアドバイスも受けながら、池の中にいろいろな生き物や水草などが生きる環境をこどもたちと一緒につくってきました。ビオトープ池をつくるにあたっては、オープン・プロジェクトとして保護者や地域の人たちにも協力、参加を呼びかけて、その人たちとの交流も兼ねて池づくりを進めてきました。

今後の課題としては、オープン・プロジェクトの継続と、多様な生き物とのかかわりにおいて子どもたちの探求心を育てられるような持続的な保育計画が挙げられます。

【情報の発信・共有】

月ごと、ユニットごとの保育のねらいや行事・活動予定について、毎月園だよりで保護者向けに発信しています。園だよりの他に、給食だより、ファミリーだより、クラスだより、保健だよりなど、各種おたよりを出しています。また、各ファミリーで「フォト通信」として、定期的にファミリーでの保育、子どもたちの様子を写した写真を掲示し、保育の内容を目で見える形で発信しています。

センター活動があった日や3、4、5歳児のクラス活動があった日などは、ドキュメンテーションとしてそれぞれの活動の様子を撮った写真と活動報告を玄関の中央掲示板で掲示し、夕方のお迎え時に保護者が見やすいようにしています。また、主にスイート児の園生活の様子はInstagramで定期的に発信し、広く園の保育について伝えられるようにしています。

その他、園からの緊急の連絡ツールとして「よいこネット」を活用しています。課題としては、次年度から別のツールを用いることになり、保護者や職員への周知が早い段階でできるようにすることが挙げられます。

従来からの課題であったホームページの内容更新は2025年度も難しく、また写真やデザインも古くなっていることから、新しいホームページ作成に取り組みました（2月から発信予定）。

【地域交流・連携】

毎年11月の収穫感謝祭で各家庭から持ち寄られるお米や野菜を5歳児が釜ヶ崎にある「いこい食堂」に届ける取り組みも継続しています。食べ物や住む家がなくて困っている人たちがいることを知り、自分たちにできることをやってみる機会となっています。

また、12月には5歳児は地域の障がい者作業所を訪問し、作業所の人たちと一緒にクリスマスのお祝いができるよう計画しています。

2018年から始まった「放課後等デイサービスこひつじ」の子どもたちとの共生も園の保育に欠かせない環境として捉えています。園の行事に放課後デイの子どもたちを招待して、一緒に楽しむ機会もつくっています。

2022年から始まった「たけしろみんなの食堂」（こども食堂）への場所（カフェテリア）の提供にも引き続き協力しています。「みんなの食堂」の活動を通して、在園している家庭で食材を必要とするところに食材物資の提供や、地域の人たちとの交流につながられています。

課題としては、コロナ渦でいったん中止になっている「こひつじdeランチ」（地域の高齢者や住民の方たちと園の子どもたちと一緒に食事をする取り組み）や、障がい者作業所の仲間の人たちや高齢者施設の高齢者を園行事に招いての交流の復活が挙げられます。

こども園の母体である泉北ニュータウン教会の存在は大きく、社会の中で小さく弱くされている人たちへの思い、こども一人ひとりへ注がれる愛、日々与えられている恵みへの感謝など、教会において大切にされている願いが園の保育の理念、目標となっています。日々の保育が教会に支えられていることを覚えて、教会とのつながりも引き続き大切にしていきます。

【子育て支援】

地域の子育てセンターとして、月曜日から金曜日までの毎日、園庭開放をおこなっています。「こひつじぱーく」という名称に変更し、地域の親子が気軽に遊びに来られる雰囲気づくりを大切にしています。また、その中で家庭での育児の悩みや困りごとを担当者が聴き取り、相談に応じることもあります。

堺市からの委託事業として、赤ちゃん訪問、一時預かり保育もおこなっています。地域からの要請で「うさちゃんクラブ」（乳幼児対象の親子の遊び場）にも出張協力しています。

在園児の保護者から育児に関する悩みや困りごとの相談がある場合は、適宜、担任等が対応し、解決に向けて一緒に考えていけるようにしています。

【災害への備え・危機管理】

園の安全計画を毎年見直して、ホームページで掲示と職員間で共有を図っています。

法人のBCPも定期的に見直していますが、職員間での共通理解の促進や内容の伝達方法については今後も課題として改善に努めていきます。

非常災害時の対応について、毎年4月や年度途中の入園時には保護者におたよりを渡し、台風接近時やその他自然災害が生じる可能性が高いと見込まれる場合には、よいこネットであらためて非常災害時の対応についてお知らせをしています。

2025年度はPTA研修として9月に「こども防災デー」を園で開催しました（共催：大阪総合保育大学、大阪DWAT、堺市消防局南消防署）。

また、備蓄倉庫も新たに設置し、非常災害時に必要な物資の保管をしています。

定期的におこなわれる避難訓練（火事、地震を想定）や不審者訓練について、各職員の役割分担の意識やいろいろな状況の想定を取り入れた訓練の深まりを次年度への課題として取り組んでいきます。